

だいにちさんじょうふくじ
大日山淨福寺



鐘楼

所在 鈴鹿市石薬師町 1840 番地

開基 松翁 永正年中〔1504～1520 年〕

本尊 阿弥陀如来
あみだによらい

宗派 真宗高田派 宗祖：親鸞〔1173～1262 年〕
しんらん

住職 青木啓文 059-374-1398
あおきけいぶん

このお寺は上野町の東方、鈴鹿川に近い「あおき青木」にあり、ここに池があって、昭和30年代ごろまでは水も多く、子供たちの格好の泳ぎ場であったようだ。

この池から大日如来が浮かび上がり、この尊像を本尊としたのが寺の起源であり、もとは「大日寺」と言われていた。住職は代々「青木」の姓を名乗っておられる。

その後、石薬師が宿場町となって間もなく現在の地に移り、寺号である「淨福寺」は、延寶7年8月25日〔1679年〕高田派本山より下附されている。本尊は阿弥陀如来立像である。大日如来は境内の別堂に祀られたが、明治41年（1908年）12月6日大木神社に合祀された。
えんぼう げち けいだい まつ ごうし

山門について

庄野宿本陣が明治 17 年に解体された後、本陣の門は明治 27 年に淨福寺に売却され山門として使用されてきたが、昭和 12 年淨福寺改修の際に不要となったので庄野村が昭和 13 年に買い戻しました。



浄福寺の門となっていた本陣の門の瓦である

当寺は佐佐木家累代の菩提寺であり、山門入り口の左側に、佐々木弘綱翁の記念碑があります。これは信綱の父弘綱の死から 17 年後の明治 41 年に全国の友人、門人達が集まり、浄福寺の門前の土地（佐々木家跡）に弘綱を偲ぶ碑を建てたものです。



佐々木弘綱翁の記念碑

碑には若かり頃の弘綱の想いが詠われています。

「和歌の浦に老いをやしなふ葦田鶴は雲のうへをもよそに見るかな」

（和歌を教えて静かに老いてゆく私は明治新政府に仕える華やかな生活を、ただ遠くながめているだけだ。）

それから毎年この碑の前で碑前祭が行われ、信綱が亡くなってからは姿を変えて佐佐木信綱顕彰歌会へと引き継がれ現在に至っています。